

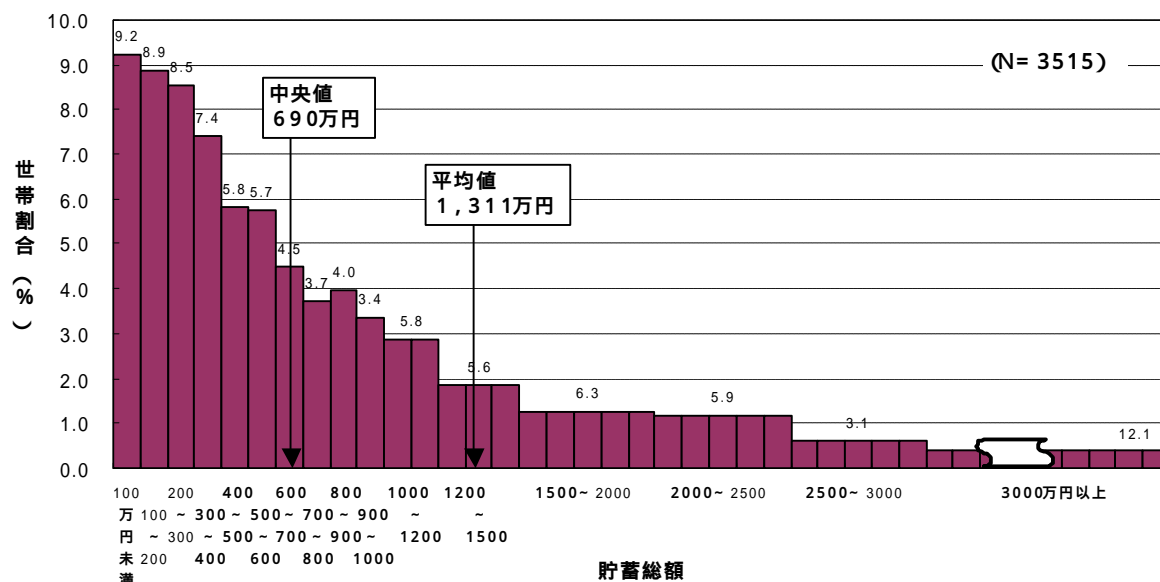
第8回「家計における金融資産選択等に関する調査」結果概要

平成14年(2002年)11月に実施した第8回「家計における金融資産選択等に関する調査」の結果概要は以下のとおりです。

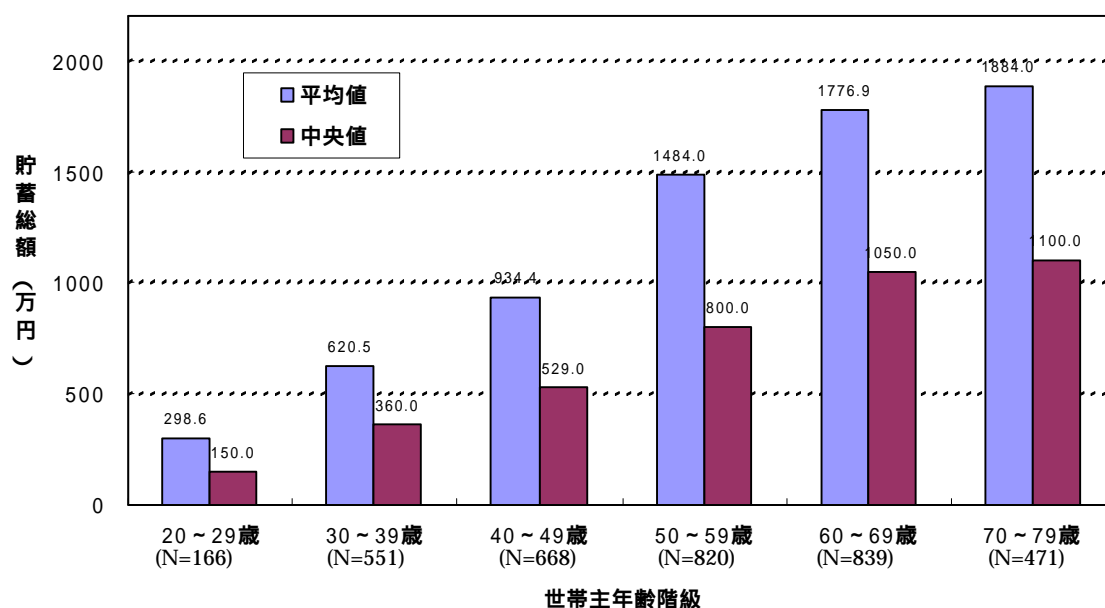
1 貯蓄総額

貯蓄保有世帯(2人以上世帯)の平均貯蓄総額(預貯金・金融商品の保有額)は1,311万円(中央値は690万円)となっている。世帯主の年齢階級別では70歳代の平均貯蓄総額が最も多く、1,884万円となっている。

貯蓄総額の分布



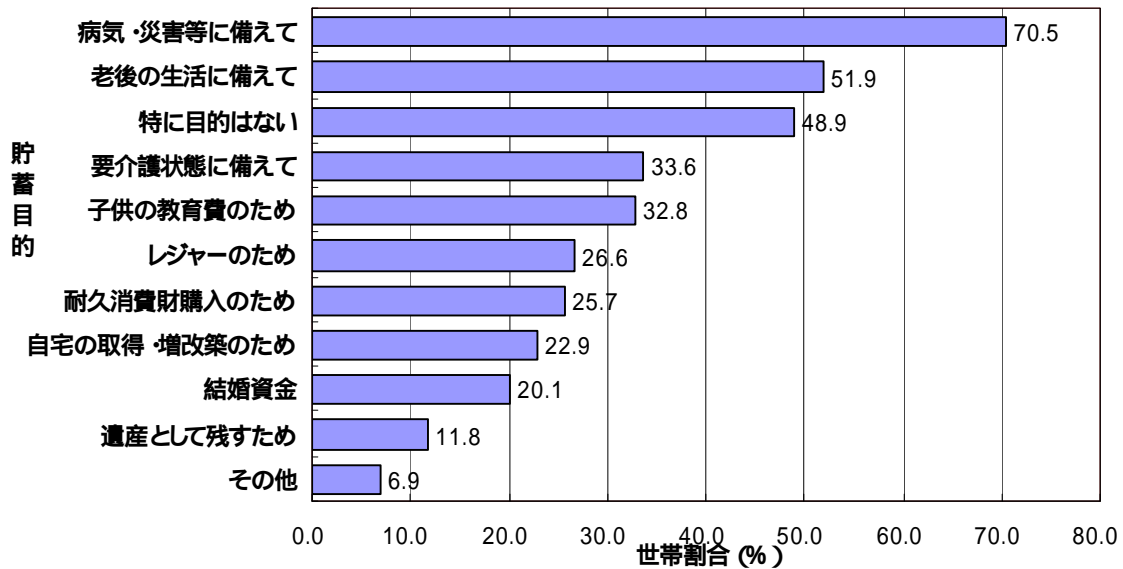
貯蓄総額の中央値と平均値(世帯主年齢階級別)



2 目的別貯蓄保有状況

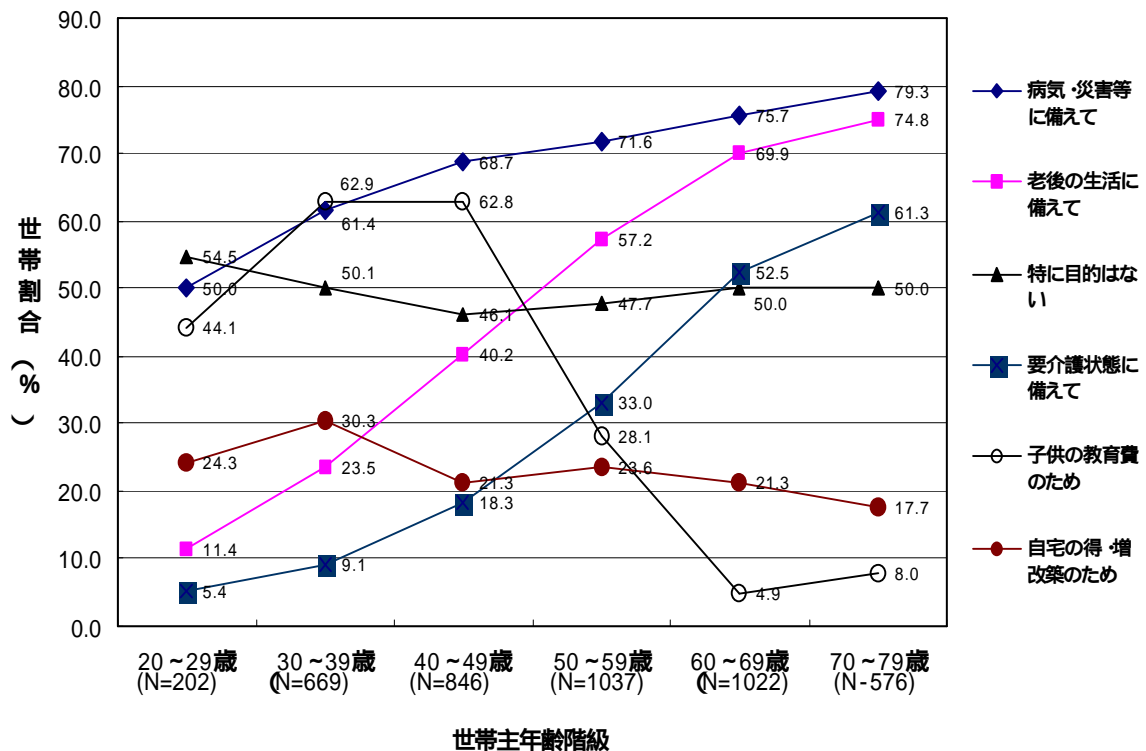
貯蓄の目的について尋ねたところ、「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」と回答した世帯の割合が70.5%で最も高く、次いで「老後の生活に備えるため」が51.9%、「特に目的はないが貯蓄をしていれば安心だから」が48.9%などとなっている。

目的別貯蓄保有状況(複数回答)



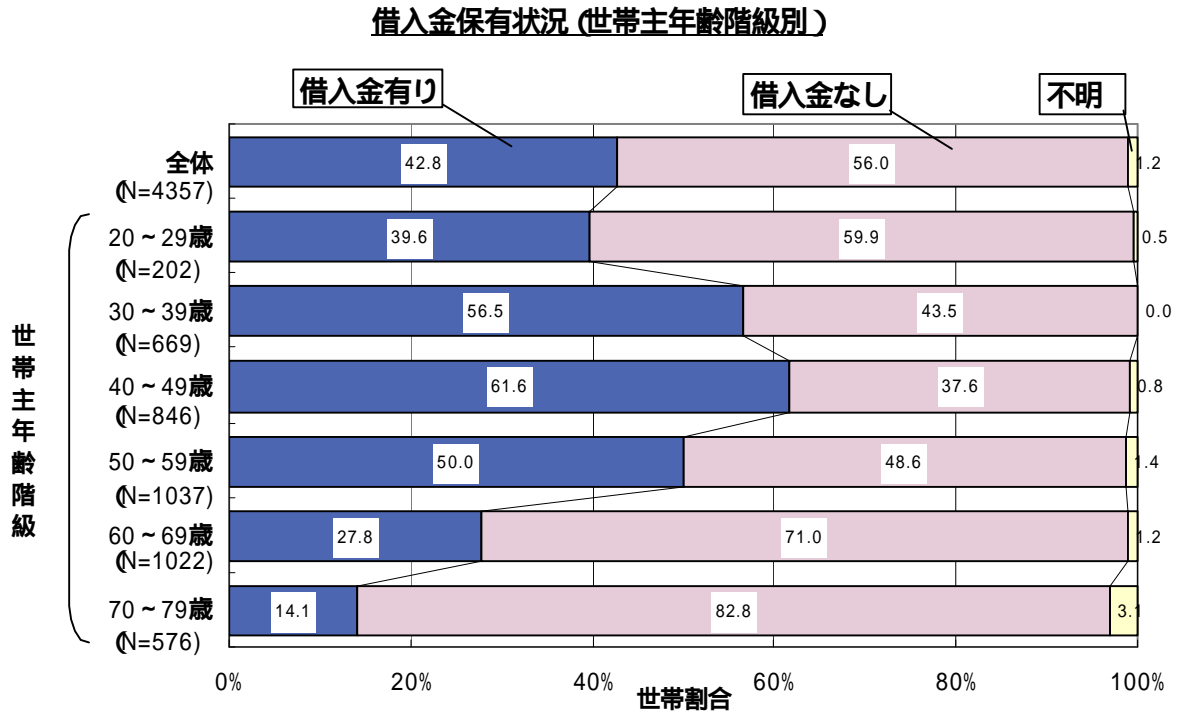
これを世帯主の年齢階級別に見ると、20歳代では「特に目的はないが貯蓄をしていれば安心だから」、30歳代では「子供の教育費のため」、40歳代以上では「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

目的別貯蓄保有状況(世帯主年齢階級別)(複数回答)

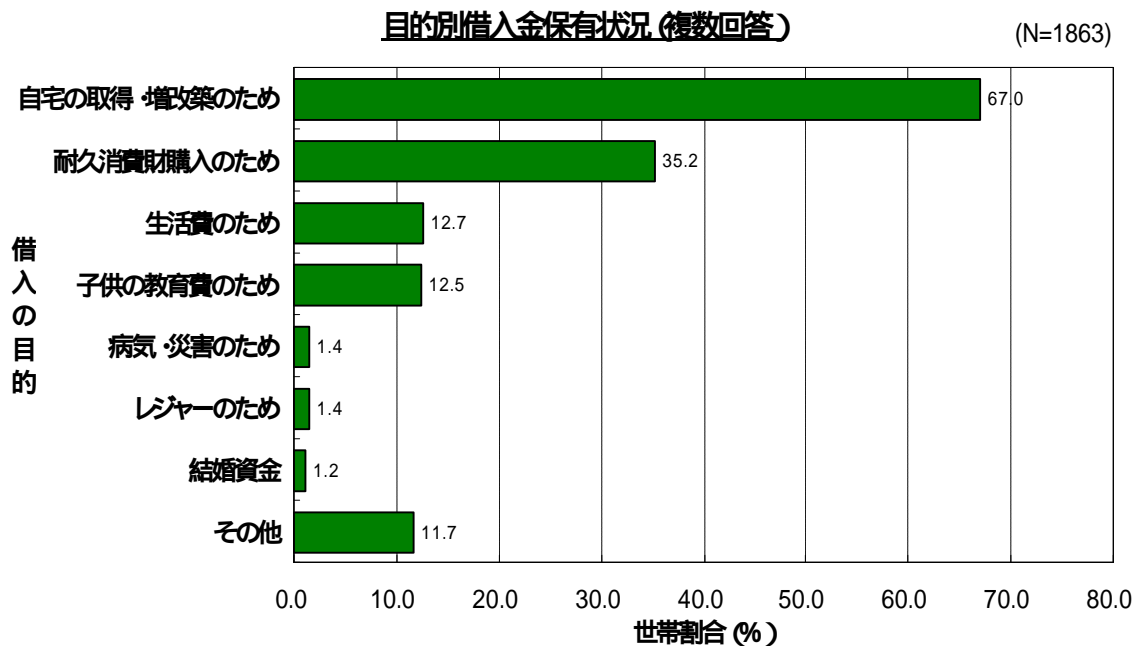


3 負債の状況

借入金がある世帯（2人以上世帯）の割合は42.8%であった。世帯主の年齢階級別に見ると、30歳代から50歳代の世帯の5割以上が借入れをしており、他の年齢階級に比べて高い割合となっている。

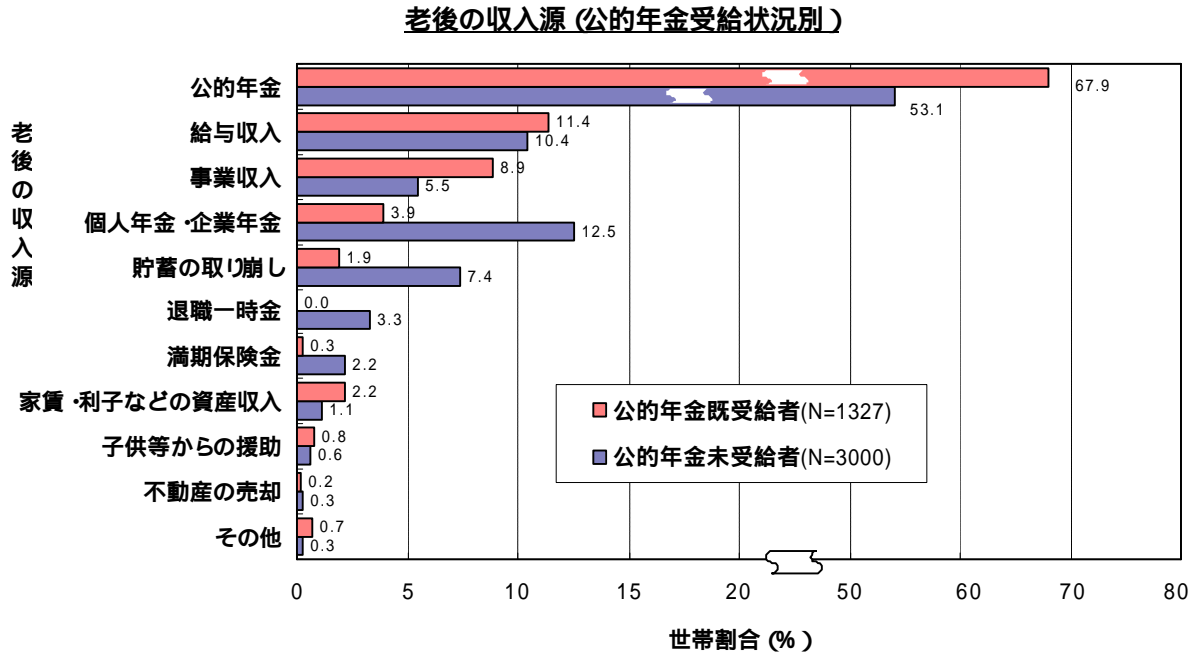


借入の目的は「マイホームの取得・増改築のため」の割合が最も高く、借入金がある世帯のうちの67.0%に達している。

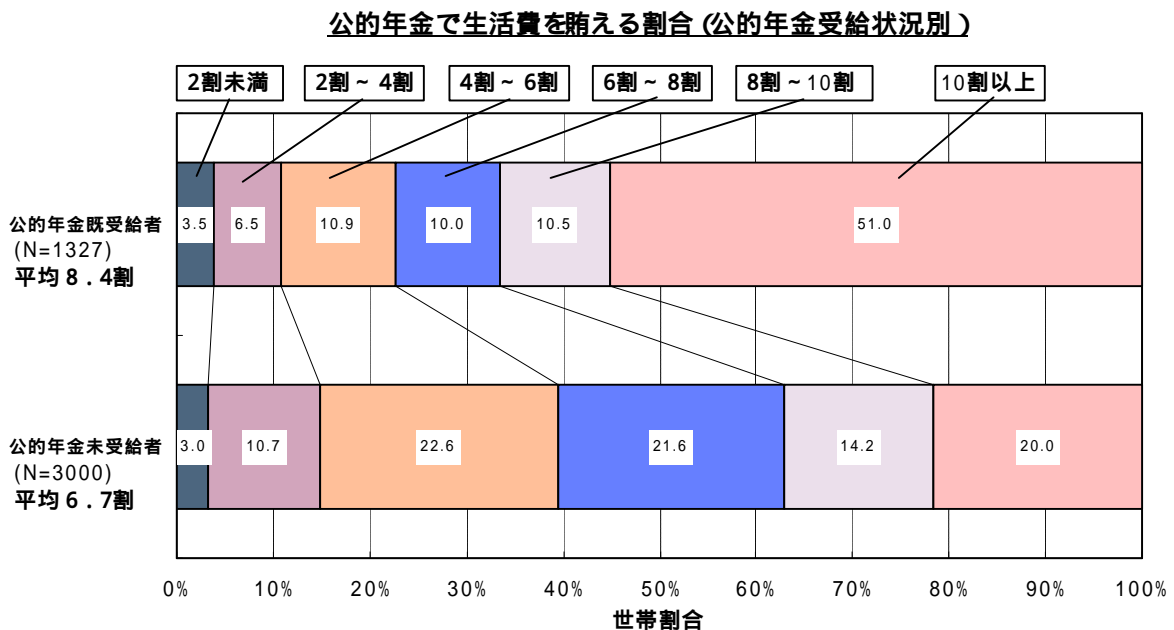


4 老後の収入源

老後の生活費を賄う最も重要な収入源としては、世帯主がまだ公的年金を受給していない世帯（以下「未受給世帯」という）世帯主が既に公的年金を受給している世帯（以下「既受給世帯」という）ともに「公的年金」をあげる割合が際立って高かった。その割合は、未受給世帯では53.1%であるのに対して、既受給世帯では67.9%となっている。



また、公的年金で老後の生活費の何割程度を賄えると考えているか（賄っているか）を尋ねたところ、未受給世帯の回答の平均は6.7割であったのに対して、既受給世帯の回答の平均は8.4割となった。特に、既受給世帯のおよそ半数が公的年金で生活費を十分に賄っていると回答している。

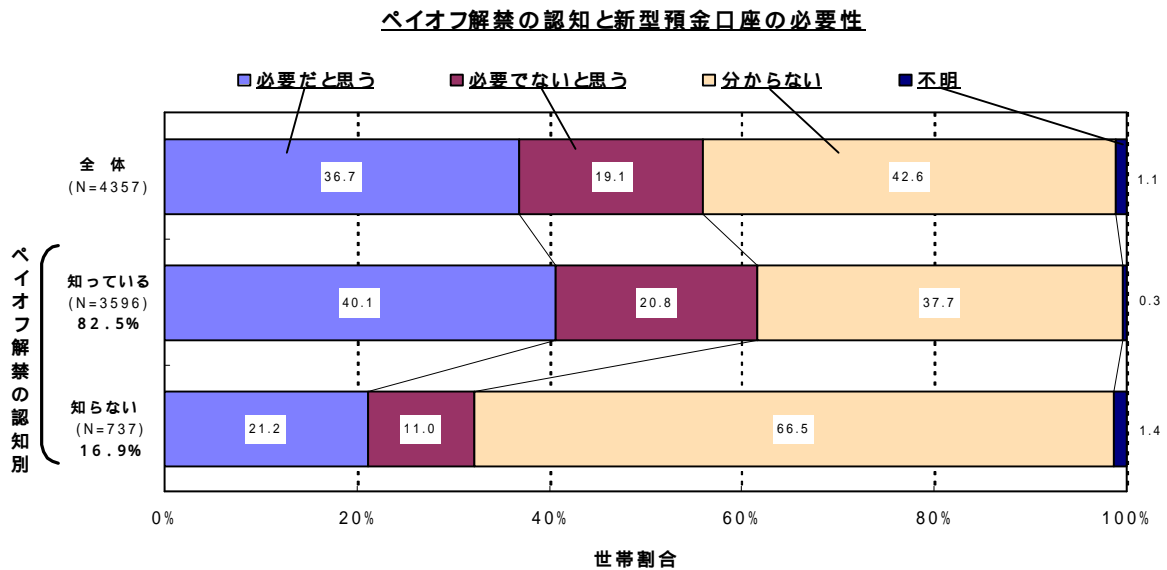


5 ペイオフ解禁の認知の状況

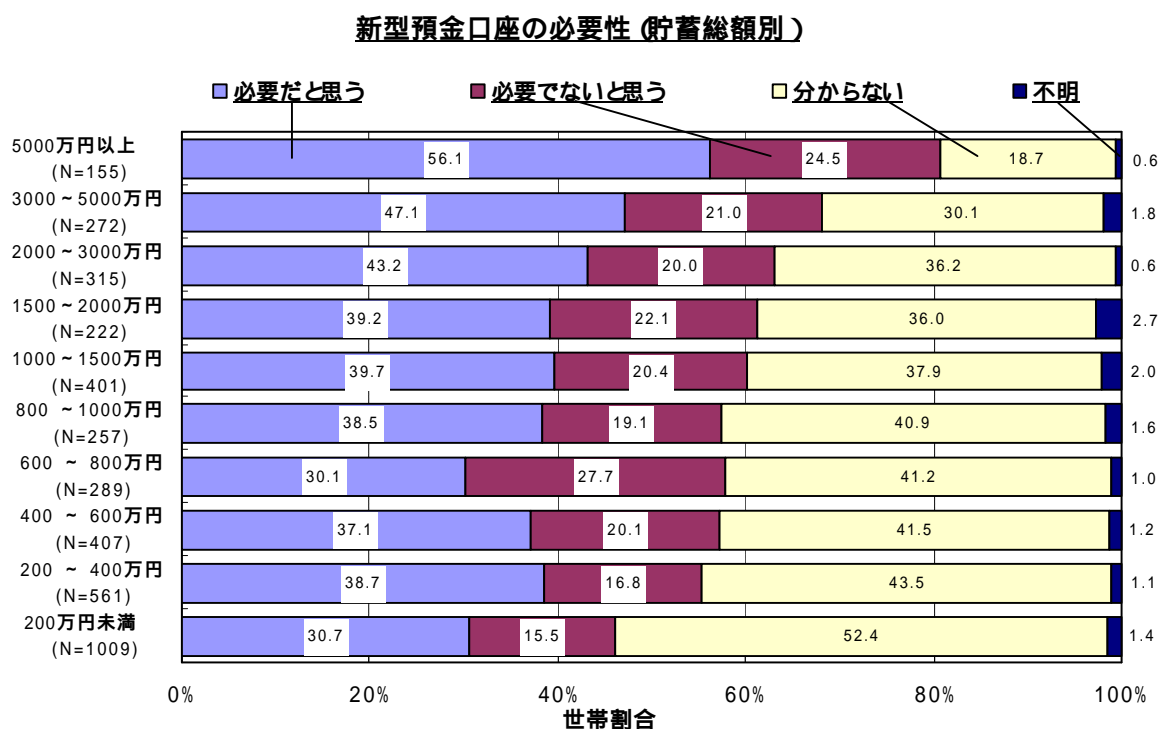
平成 14 年 4 月に始まったペイオフ解禁について、その認知を尋ねたところ、「知っている」とした世帯(82.5%)が、「知らない」とした世帯(16.9%)を大きく上回った。

さらに、平成 17 年 4 月に導入予定の新しい決済性預金口座(新型預金口座)の必要性について尋ねたところ、全体では「分からない」(42.6%)とした世帯の割合が最も高く、「必要だと思う」とした世帯(36.7%)、「必要でないと思う」とした世帯(19.2%)の順となった。

これをペイオフ解禁の認知別に見ると、「知っている」とした世帯では「必要だと思う」とした世帯が約 4 割(40.1%)に達しているものの、「知らない」とした世帯では約 2 割(21.2%)に留まった。



また、新しい決済性預金口座(新型預金口座)の必要性について、世帯の貯蓄総額別に見ると、貯蓄総額 5000 万円以上の世帯で「必要だと思う」と回答した割合が最も高く 5 割強(56.1%)に達するなど、貯蓄総額が多くなるにつれて「必要だと思う」とする割合が高くなる傾向が見られた。

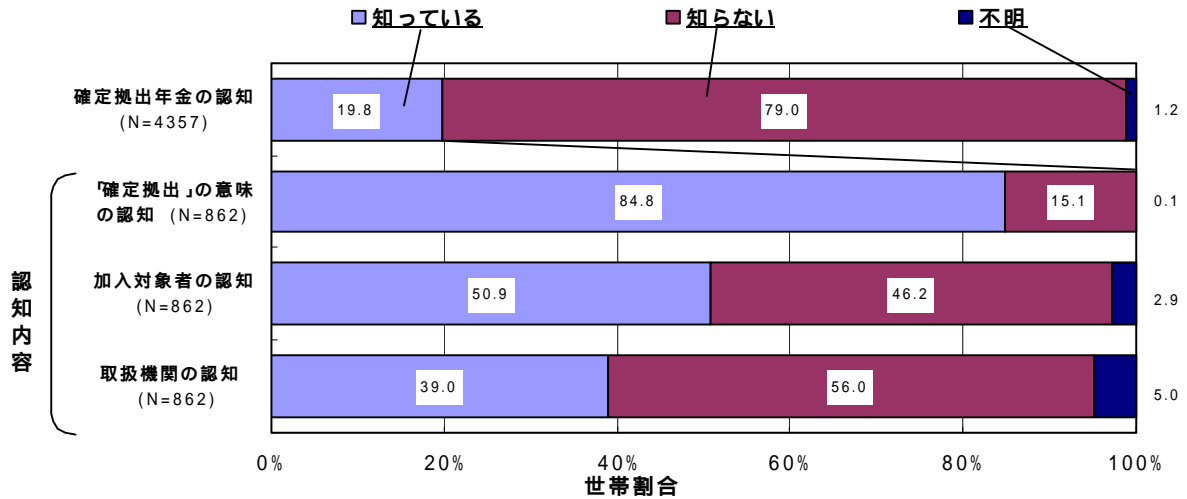


6 確定拠出年金の認知の状況

平成 13 年 10 月に始まった確定拠出年金制度について、その認知を尋ねたところ、「知っている」とした世帯(19.8%)が、「知らない」とした世帯(79.0%)を大きく下回った。

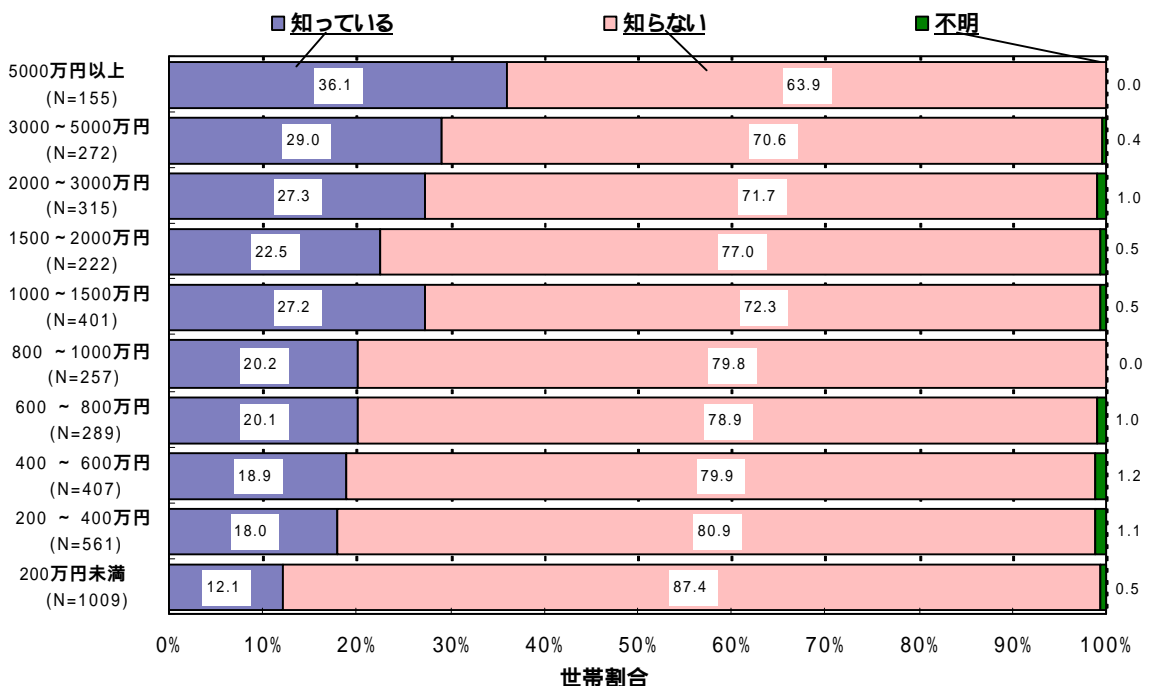
さらに、「知っている」とした世帯に対し、確定拠出の意味、加入対象者及び取扱機関の認知を尋ねたところ、「確定拠出の意味を知っている」(84.8%)、「加入対象者を知っている」(50.9%)、「取扱機関を知っている」(39.0%)となった。

確定拠出年金の認知と特色の認知



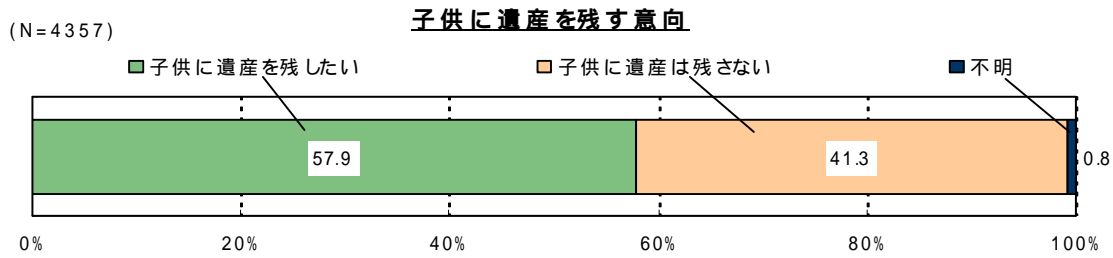
また、確定拠出年金制度の認知について、世帯の貯蓄総額別に見ると、貯蓄総額 5000 万円以上の世帯で「知っている」と回答した割合が最も高く 3 割強(36.1%)に達し、「知らない」と回答した割合は最も低く約 6 割(63.9%)となった。貯蓄総額が多くなるにつれて「知っている」とする割合が高くなる傾向が見られた。

確定拠出年金の認知(貯蓄総額別)

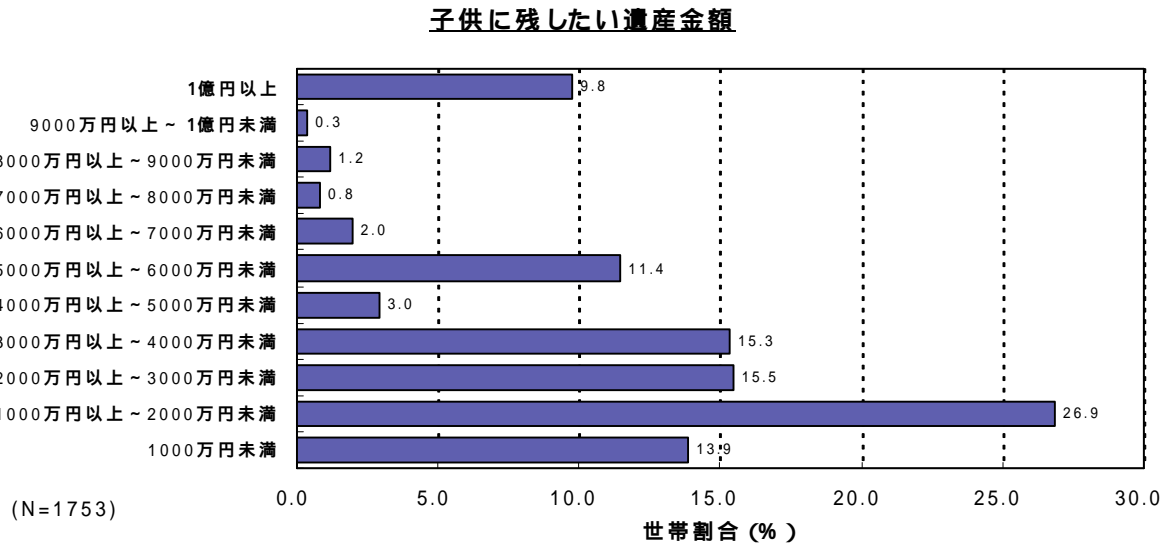


7 遺産に対する考え方

子供へ遺産を残す意向を尋ねたところ、「子供に遺産を残したい」(57.9%)が、「子供に遺産を残さない」(41.3%)を上回った。



子供に遺産を残す意向がある世帯に、子供に残したい遺産の金額について尋ねたところ、金額に記入があった世帯では「1000万円以上2000万円未満」と回答した世帯が26.9%となり他の回答を上回った。



また、子供に遺産を残す意向がない世帯に、子供に遺産を残さない理由について尋ねたところ、「遺産を残すだけの余裕はないから」と回答した世帯が8割以上(83.5%)となり他の回答を大きく上回った。

